

◇ 学 校 通 信 ◇

令和 7 年 7 月号

桶川市立加納中学校

加納中だより

<http://www.okegawakanou-jh.ed.jp/netc/htdocs/>

《校訓》自主の風

《学校教育目標》

きらめく心、光る汗

生徒数 355名

読書で広がる世界

校長 矢澤 等

3年前の夏季休業日から、私は、学校閉庁期間に「青少年読書感想文コンクール」の課題図書を読むのを、毎年の楽しみにしています。生徒たちが、読書感想文を書くのに一生懸命に頑張っているのも、共通する話題が持てたらいいなと考えたことがきっかけです。今年の課題図書3冊も発表され、本校の図書室にも置かれています。

小学校時代は、実話（ドキュメンタリー）に興味があり、戦後30年間もフィリピンのルバン島に残り、終戦を知らずに過ごした小野田寛郎さんの手記『戦った、生きた、ルバン島30年』という本や、たった一人ヨットで無寄港世界一周を果たした堀江謙一さんの『世界一周ひとりぼっち』という本を読み、自分も一緒に冒険をしているような緊張感を味わいながら胸を躍らせたことを、50年経った今でも覚えています。

先日、『ミスタープロ野球』と親しまれ、選手としても監督としても、日本のプロ野球界をけん引した、長嶋茂雄さんがご逝去されました。長嶋さんの引退試合をテレビにかじりついて観ていた私は、引退後に出版された『燃えた、打った、走った！長嶋茂雄』という本を父に頼んで買ってもらい何度も読み返しました。巻頭に紹介されていた、引退セレモニーの長嶋さんの言葉を全て暗記して、家族に披露したこともありました。

読書によって広がる世界があります。小説や物語のような創作の世界は、想像力や感性を養ってくれます。伝記や旅行記などのドキュメンタリーは、事実に基づく臨場感や説得力があります。本校で行われている「朝読書」の時間をはじめ、生徒たちには、様々な本との出会いを大切にしてもらいたいです。趣味や娯楽の本でも、文学や専門書でも、読み終えたときには、人生が豊かに、楽しくなると思います。この夏、少し時間を見つけて、まず1冊の本を手にとってみてください。



2025 課題図書

「わたしは食べるのが下手」 天川栄人 著

「スラムに水は流れない」 ヴァルシャ・バジャージ 著

「鳥居きみ子：家族とフィールドワークを進めた人類学者」 竹内紘子 著